

■ 強い！市場のリスク選好ムード

依然、ドル/円については一目均衡表の週足「雲」上限の水準が強い下値サポートとして機能している。同水準の下方からは62週移動平均線（62週線）が徐々にせり上がってきており、当面の下値は堅いといった印象である。

既知のとおり、先週末6日に発表された12月の米雇用統計における平均時給の伸びが事前の市場予想や前回実績を下回ったことに加え、12月のISM非製造業景況指数が予想外に弱い結果であったことなどが、足元の市場のムードを支配している模様である。

結果、6日以降の米10年債利回りは基本的に低下傾向を辿っており、そのことを好感した米国株はIT・ハイテク株を中心に強含みの展開を続けている。それが全体のリスク選好ムードを盛り上げていることで、ドルはリスク選好売りの流れのなかにあるのだが、同時にリスク選好で円を売る流れもあり、結果的にドル/円は底堅い推移となっている。

10日には、リスクバンク主催のシンポジウムに米連邦準備理事会（FRB）のパウエル議長が登壇するという事で、市場は事前にタカ派寄りのスピーチが行われる可能性に対する警戒を強める場面もあったが、結果は肩透かしに終わった。今回は、もともと具体的な金融政策に言及するような趣旨の会合ではなかったわけで、具体的言及がなかったのは当然のことであったとも言える。

足元でドルがやや弱気に傾くなか、当然、ユーロ/ドルは強含みでの推移を続けている。ユーロ/円も強気で推移しており、それがクロス円全般、引いてはドル/円の底堅さにもつながっている。

ことユーロについては、欧州中央銀行（ECB）の専務理事や仏中銀総裁、フィンランド中銀総裁らが執拗なまでに利上げ継続の必要性を強調していることが、一つの下支え要因となっている。加えて、想定外の暖冬や伴う天然ガス価格の下落、中国におけるゼロコロナ政策の撤廃などが、ユーロ圏景気の見通し改善につながっていることも見逃せない。

ユーロ/ドルの週足ロウソクは、先週までに2週続けて一目均衡表の週足「雲」下限水準



を終値で上抜けており、さらに足元では62週線をクリアに上抜ける状況ともなっている（左図参照）。

さらに、週足の基準線が上向きになっていること、遅行線が26週前の水準を上抜けてきていることなどを勘案すると、少なくともテクニカル的には強気の流れのなかにあるということが出来る。

当面は、やはり週足「雲」上限水準（現在は1.0930ドル処）が意識されやすいと見られ、勢い1.10ドルの節目を試す可能性もないではないと見る。

もちろん、それは本日（12日）発表される12月の米消費者物価指数（CPI）の結果にもよる。どちらかというと「総合指数」は前月比マイナスになるとの見方の方にバイアスがかかっており、想定通りであればドルは一旦売られやすくなるろう。

むしろ、米CPIが想定外に強めの結果であった場合の反応の方が大きく出やすいため、やはり目先の警戒は怠れない。ただ、基本的に米国のインフレ傾向は今後も弱まって行く個人的には見る。

（01月12日 09：50）